

第 72 回 日本泌尿器科学会中部総会 ダイバーシティ推進委員会企画

「名人に聞く！プレゼンテーション&ファシリテーションのコツ」

開催日時 2022 年 10 月 6 日（木） 13：30～14：30

司会 藤田医科大学 腎泌尿器外科 佐々木ひと美

済生会中和病院 泌尿器科 松下千枝

演題

日本泌尿器科学会におけるポジティブ・アクションー女性座長候補者リスト作成をと
おして見えてきたものー

岡山大学 泌尿器科・日本泌尿器科学会 ダイバーシティ推進委員会 小林知子
プレゼンテーションのコツ；15 分で決めるプレゼンのやり方

原泌尿器科病院 泌尿器科 井上貴昭

ムチャブリ！わたしが座長になるなんて

京都大学大学院医学研究科 泌尿器科学 小林 恭

泌尿器科学会ダイバーシティ推進委員会ポジティブアクションの一つである「女性医師座長・シンポジストリスト作成」にあたり、“自信がないため座長やシンポジストを希望しない”や“座長を引き受けたものの女性を最優先していると揶揄された”などの意見が寄せられた。そこで、今回の企画は、ポジティブアクションの重要性に加え、スペシャリストでなくてもファシリテーションの技術を知っていれば座長はできる、ということを実感してもらうことを目的とした。

小林知子先生からは泌尿器科学会におけるポジティブアクションとして、1. 座長、シンポジストの割合を上げる 2. 意思決定機関への女性医師の参加実現とともに、3. 女性医師に対してはポジティブアクション推進のために座長依頼があれば引き受けてもらいたいというご発表をいただいた。

井上貴昭先生からはプレゼンテーションにはストーリーが大切であり、そのコツを伝授していただいた。1. プレゼンテーションは伝える目的と、聴き手が何を目的に聴きにきているのかを意識すること、2. 3 部構成にして、結論→理由（説明）→最後にもう一度結論を話すこと（15 分でのプレゼンテーションの場合）、3. イントロで目的を強調して、本題、最後に言いたいことのサマライズをすること、という 3 点をお話いただいた。

小林恭先生は、座長の仕方という資料やハウツー本はないが、主役は演者であり、3 日もたったら名前さえ忘れられるくらいがちょうどよい、と話された。大切なのは 1. 最初に座長自ら名乗ること 2. 演者の名前を間違えないこと 3. 時間の管理をきっちりすること、の 3 点である。専門分野でなくても準備期間で勉強し、気負わずに自分の素直な感想や疑問を伝えたらよい。座長はチャンスととらえてポジティブに引き受けましょう、とお話いただいた。

最後に会場に参加されていた野々村理事長から「座長を大げさにとらえずに引き受けて

ほしい、総会でも女性を積極的に登用している。誰かがやらないといけない。」とのご意見いただき終了となった。

～司会者としての感想～

今回の企画を通して「嫌がる女性を登用するのはダイバーシティではないのでは？」という意見もあり、評価が先がない（＝自信がない）と人前での仕事を嫌がる女性が多いということを理解してもらうにはまだ時間がかかるといった印象を受けました。

木曜日の午後という時間帯であったこともあり、若手医師の現地参加は少なく、ぜひ周囲の若手医師、女性医師に役割が回ってきたときには背中を押していただくことをお願いしたいと思います。お集まりいただいた先生方に御礼申し上げます。

（文責：松下千枝）